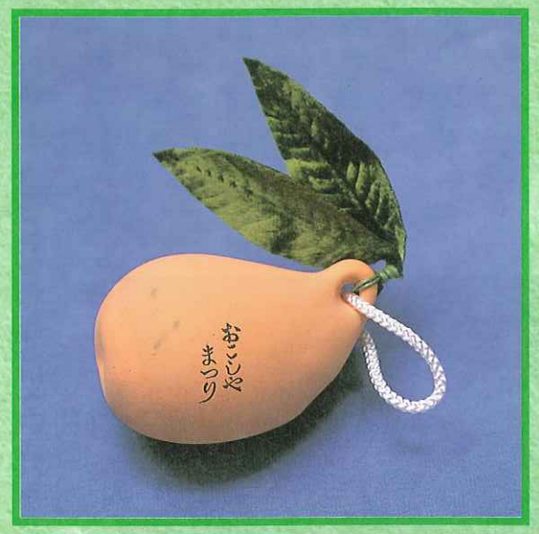
NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす



毎年六月十四日、えびす様が現在の宮地にお越しになられた伝説により「おこしや祭り」がおこなわれます。途中で居眠りをされたえびす様のお尻をつねった事から「尻ひねり祭り」とか浴衣を着始めることから「ゆかた祭り」とか、ビワの実の熟する季節のため「びわ祭り」とも呼ばれています。

平成9年
夏号

西宮神社／〒662　兵庫県西宮市社家町1-17
TEL／0798-33-0321　FAX／0798-33-5355

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

平成9年
夏号

▼四季の境内（太々神楽祭・あやめ刈り）

◎編集室から

えびすの森の青葉若葉が目にしみる季節、全国の各講社の皆様方にお集まりを頂きました連日の太々神楽祭も、無事終えることができました。崇敬者の方々からは、震災当時のままの状態になっている神池や更地の社務所跡地等につきましてご心配を頂き誠にありがとうございました。お陰をもちまして、長期計画による震災からの復興工事も順調にすすんでおり、いよいよ来年1月からは新社務所の建設工事に着手する予定になっています。

西宮に縁の深い落語界の重鎮である露の五郎師匠と新進気鋭の評論家河内厚郎先生にご登場を頂き、地元への熱い思いを語って頂きました。今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

丑年に優勝の実績あり。恒例の必勝祈願に訪れた吉田新監督率いる今年のタイガースは、近年にない雰囲気を漂わせていました。

前年度、本紙の編集にあたっていた、山本晃道権祢宜が3月末をもちまして家職継承のため、退職いたしました。

（英）

西宮えびす平成9年夏号（通巻第7号）
平成9年6月1日発行
発　　行／西宮神社
〒662西宮市社家町1－17
編　　集／講務課広報
デザイン／ＯＨＴＡファーゼン
協　　力／NTT関西支社広報課
市立西宮東高等学校
毎日放送報道局
阪神タイガース
西宮商工会議所
河内厚郎事務所
露の五郎事務所
いぬづか写真室

INFORMATION お知らせ

◎ご奉賛のお願い

平成七年一月十七日に突発しました阪神大震災により、当社におきましても本殿をはじめ建造物・石造物等全ての境内施設に大被害を被りました。

つきましては、これらの歴史的建造物を平成の大造営として旧態に復しますと共に、来る新世紀に相応しい建造物とすべく鋭意その建設に尽力いたす所存でございます。

何卒、氏子・崇敬者の皆様方のご奉賛を宜しくお願い申し上げる次第でございます。

詳しくは、西宮神社復興奉賛本部までお問い合わせ下さい。

☎ 〇七九八（三三）〇三二一

西宮神社のおもな祭事・行事

◆夏越しの大祓（なごしのおおはらえ）　◎六月三十日

知らず知らずのうちに身につけた穢（けがれ）を六月と十二月の末日に行われる大祓式で祓い清め、厄難を避けます。

六月の大祓式は、「夏越しの大祓」ともいわれ、暑い夏を越すために欠くことのできないものです。

▲6月の大祓式では、直径約4mの大茅の輪くぐりが行われます。

（茅の輪）

（大祓人形）

◀人形を社務所へお持ちいただくか、郵送していただければ、お祓いをした後、武庫の海へお流しします。
大祓神事のおさがりとして、「茅の輪」をお授けします。

◆夏祭り　◎七月二十日

午前中の祭典と暑気を払う湯立て神楽に引き続き、夕刻にはえびす萬燈籠点灯式が行われ、境内外の約三百基の燈籠に灯がはいっていきます。

◆観月祭（かんげつさい）　◎九月十六日

仲秋の名月、本殿での祭典に引き続き女人舞楽で有名な原笙会による舞楽奉納を鑑賞した後、西宮神社会館にてお月見料理をお楽しみ下さい。

◆宮水まつり（みやみずまつり）　◎九月二十日

西宮市内の酒造会社十七社が、宮水と日本酒のＰＲ、秋から始まる新酒の醸造祈願を行います。

◆例祭（れいさい）　◎九月二十二日

例祭は神社において由緒の深い重要な祭典で、戦国時代までは、神戸の和田岬まで船渡御をしていました。

やまびこ

西宮を夢のある街に

聞き手／西宮神社宮司　吉井　良隆

阪神間の中央に位置する西宮は、灘の酒どころとして有名ですが、えびす信仰の本拠として能や狂言に登場するほか、人形芝居発祥の地としての顔を持っています。

今回は、西宮の歴史と伝統を踏まえた街づくりのあり方を芸能という側面から文芸・演劇評論家の河内厚郎さんに伺いました。

◆西宮からおこった人形芝居

宮司　西宮には今から約千年前の平安朝の頃、すでに人形操りを特技とする人々が定住して、西宮神社に属していたようです。彼らは、人形芝居を通してえべっさんのご神徳を説き、お札を配って廻って信仰を広めていたようです。戎舞がこれを象徴しています。

河内　人形芝居の代表ともいえる文楽の歴史を辿ってみますと、必ず「摂州西宮の傀儡（くぐつ）師」という言葉が出てきます。この傀儡師は、西宮神社の北側に隣接する現在の産所町の辺りに住んで、人形を操りながら各地を巡業していたようです。彼らの活動の全盛期は桃山時代で、その頃には御所に参内して演じた記録もあり、大道芸を脱し小屋掛けの芝居になっていたものもあったようです。

摂津の名物であった西宮の人形芝居が、中世末期に泉州堺へ伝わった三味線音楽を伴奏とする浄瑠璃と融合することで、人形浄瑠璃や文楽が生まれてきたのです。文楽の三番叟の頭がえべっさんのお顔であるのも、その名残だといわれています。

宮司　つまり人形芝居は、西宮から生まれてきたのですね。その傾向は、近世にはどのようになっていくのですか。

河内　酒造りが盛んになり、廻船の寄港による富みにも恵まれた江戸時代から明治の頃までは、浄瑠璃を習う町衆も多かったようです。そんな古き良き面影を昭和初期まで伝えていたのが、旧市街にあった歌舞伎劇場の三浦座です。明治二十三年に設立された小屋で、花道を備えた定員八百名を越える立派なものでした。

しかしながら、大正から昭和にはいると私鉄沿線の開発にともない、西宮をはじめとする阪神間の町々はモダニズムの洗礼をうけることになり、現在の阪急今津線が西宮北口に通じると、西宮市民もこぞって宝塚へ出かけるようになりました。

河内　厚郎（かわうちあつろう）

文芸・演劇評論家、昭和27年生・西宮市出身、一橋大学法学部卒・舞台芸術学院卒、現在NHK番組審査員、朝日新聞・日本経済新聞等にレギュラー執筆の傍ら近畿各自治体の文化行政にかかわる。

著書に「街は劇場」（関西書院）、「阪神観」（東方出版）、「阪神学事始」（神戸新聞総合出版センター）等がある。

◆酒蔵文楽と街おこし

宮司　西宮の歴史を伝え、文化発展において大きな意味をもっていた「酒蔵文楽」が震災以降中止されているのは惜しいですね。

河内　「酒蔵文楽」は平成二年九月一日に第一回目が開催され、プロデュースを私が務めました。出演は、西宮在住の人形遣いで人間国宝の吉田文雀氏らが中心となっていました。白鹿のレンガ造りの酒蔵の中でロウソクをともし、揺れる炎の中で表情を変える文楽人形の幻想的な味わいが好評で、毎回抽選で入場者を決めなければならない程でした。全国各地からも見学に来られる方がおられたのですが、阪神大震災で会場となっていた酒蔵が崩壊し、やむなく中止しています。しかし、これまで「酒蔵文楽」を支えてきた市民団体の西宮文楽振興会や出演者、関係者の熱意はまだ消えていません。近い将来必ずや復活するものと期待しています。

また、私はかねてから阪神西宮駅前の再開発に「百太夫広場（ひゃくだゆう）」というものを設けることを提案しています。「太夫」とは元々、遊女や芸人を意味する言葉ですが、傀儡師の崇める芸能神である「百太夫」の名をとり、阪神間に縁のある百人の太夫つまり芸人を毎年一人ずつ選び、百年かけてこれを顕彰していく広場にしてはどうかと思っています。

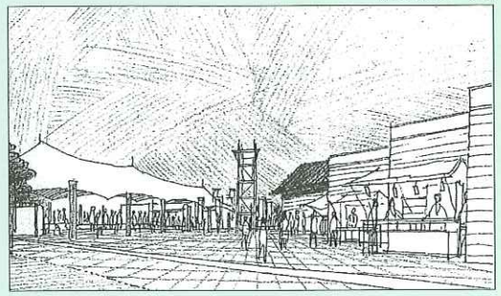
復興への道のりは厳しいでしょうが、防災ばかりでは夢のない街になってしまいます。歴史と伝統を踏まえた「夢」という大きな花の咲く街になってもらいたいものですね。

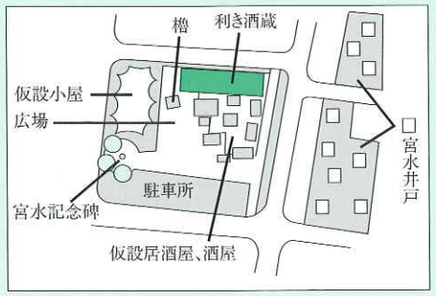
酒文化のあふれる街に

日本酒をテーマに、宮水井戸場に施設構想。

阪神大震災で大きな被害をうけた酒造会社が団結して、日本酒をテーマにした集客施設をつくる構想が現在、西宮商工会議所を中心に持ち上がっています。これは酒造各社が久保町に所有している宮水井戸を中心にその周辺を整備して、宮水公園をつくり、レトロ調の芝居小屋や銭湯、日本料理店、利き酒蔵等をつくるというものです。人気の高かった「酒蔵文楽」も中止となっている今、行政の後押しのもとで商工会議所や神社が協力して、酒造会社が一丸となってこの構想に取り組めば「酒造りの街」、「人形芝居発祥の地」というような西宮ならではの特色を全国へアピールできる活気あふれる街づくりの拠点となることでしょう。

街づくりイメージ図





おこしや祭り

◎六月十四日

夏を呼ぶお祭り

昔、鳴尾の浦の漁師が網にかかったご神像のお告げにより、えびす様を現在の鎮座地へお連れする際、休息されたと伝えられている所が「おこしや跡地」として残されています。

今でも毎年六月十四日には、えびす様をお乗せした御輿(みこし)が「おこしや跡地」まで巡幸し、お休みになられます。いつの頃からか、このお祭りにビワをお供えしたり、浴衣を着始めたりと、季節感あふれる関西の夏祭りのさきがけとなっています。

▲おこしや跡地へ巡幸する御輿
氏子青年若えびす会に担がれた御輿を中心に神職や浴衣姿でビワ籠を提げたびわ娘がおこしや跡地までお供をします。

▲びわ娘によるビワの授与
ビワの旬の時期におこなわれるため、「びわ祭り」とも呼ばれています。御輿到着後、おこしや跡地にお参りに来られた方に無料でビワが授与されます。

▲おこしや跡地
本町にあるおこしや跡地には「蛭子大神御輿屋伝説地」の石碑が残されています。

●おこしや祭りQ&A●

Q おこしや祭りの「御輿屋」とは?

A 輿とは、二本の棒に屋形を乗せた乗り物で、神様や高貴な人が乗られる時に御をつけて「みこし」と読むことが多く、その乗り物を置く場所を御輿屋といいます。「おこし」と読むことについては「お越し」から来たという説もあります。

Q「びわ祭り」とか「ゆかた祭り」ともいわれるのはなぜ?

A 旧暦の五月、今の六月の中頃はビワの実がちょうど熟する頃で、神社からおこしや跡地までの旧街道(本町筋)沿いにビワの木があり、ご神前へお供えしていました。地元では、この日から浴衣を着始める習慣があり、浴衣を着てお参りしたため「ゆかた祭り」とも呼ばれるようになりました。

◎びわ鈴
びわ祭りに因んで、旬の果物であるビワを型取ったかわいらしい土鈴です。毎年六月十四日のおこしや祭りの日に授与されます。

Q 昔は、お尻をつねってもよいお祭りだったそうですが?

A おこしや跡地で休まれたえびす様が、居眠りをされてお目覚めにならなかったため、お尻をひねって起こしたという、いい伝えから「尻ひねり祭り」とも呼ばれています。この日だけは誰のお尻をつねってもよいという風習が広まり、女性は洗面器や座布団でお尻を守っていたそうです。

えびす信仰・・・シリーズ⑥

おこしや祭り

むかしむかしのお話しです。鳴尾の沖で一人の漁師が網を引いていました。

「どれどれ、魚がどっさりかかったぞ。」

漁師が網を上げると、中には何やら黒い物が入っていました。

漁師はそれを海へ戻し、夢中で網を打っていると神戸の和田岬までやって来てしまいました。

「あと一回だけ網を打って、もう帰ろう。」

漁師は力いっぱい網を打ち、上げようとすると重くてなかなか上がりません。やっとの思いで船まで引き上げると、今朝鳴尾の沖で網にかかった物と同じです。よく見ると神様のお姿をしたお像であったので、不思議に思い家へ持ち帰りました。

するとその夜の夢にえびす様が現れ、「この地が気に入ったので、住むことにする。西の方に社をつくりなさい。」とお告げがありました。漁師は慌てて村人を集め、えびす様を御輿に担ぎ西へと出発しました。

しばらくするとえびす様が居眠りをされたため、一休みしたのですが、いくら待っても起こしても目を覚まされません。そこで村人達は、恐れ多くもえびす様のお尻をおひねりして起こし、再び出発しました。

しばらく行くと、水鳥が浜辺で遊ぶ、松の木がこんもりと茂る場所へと来ました。

「ここじゃ、ここじゃ。」とえびす様は、ご満足の様子です。

そこに村人達は、社を建てて、えびす様をおまつりしました。

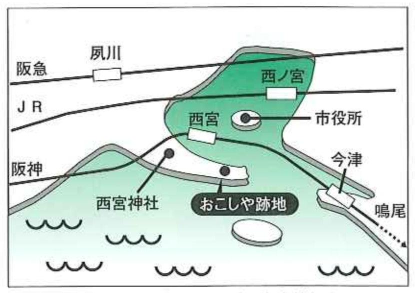
これが、今の西宮神社の始まりだといわれています。

（西宮ふるさと民話より）

今から約六千年前、西宮市南部の大部分は海の底でしたが、六甲山からの土砂が河川によって運ばれ、しだいに陸地化していきました。西宮東高校の足立年樹先生の計測によると、今から千～千五百年程前には、西宮神社付近が海岸線であり、沿岸流の働きにより、天の橋立のような砂州が東へ延びていたようです。その砂州の付け根あたりが西宮神社で、現在のおこしや跡地付近が砂州の先端部分にあたります。

おこしや祭りの伝承は、海の守り神であるえびす様を鳴尾の漁民が神秘的で美しい西宮の砂州の先端まで船で運び、そこから御輿に移し替え、現在の西宮神社におまつりしたことを伝えているのかもしれません。

また、鳴尾の沖で海に戻した神像を再び神戸の和田岬沖で得たというのは、その間の海域が西宮神社の神領であったからでしょう。



▲千～千五百年前の西宮神社付近の海岸線想像図

上方落語協会会長
露の五郎

毎年正月にまず、初参りをしますえべっさん、誰にもわけへだてなく福を授けて下さる神様ですから、お参りする人々が自然に福々しい感じになって、気持ち良く新年を迎えられます。昔から西宮といえばえべっさんのことで、「阿弥陀池」の一席の中でも西宮からえべっさんが出てきます。

このえべっさんが西宮へ鎮座された由来が物語られている六月十四日のおこしや祭りも、なかなかユニークなお祭りです。なにしろ若い娘さんのお尻をひねってもよい祭りというのですから、今なら訴訟ものです。これは、年頃の娘さんが大人になった証拠をもらうようなもので、昔はひねられなかった方が心配したといわれています。おおらかな時代の面白い習慣ですね。神社からおこしや跡地までの参道には、淡路島などから季節物のビワ売りの店が並び、浴衣姿の参拝者で賑わう、夏のさきどりとして西宮にとって、なくてはならない風物詩であったように思います。

トピックス

◎NTTマルチメディアワールド開設式典 12月3日

関西のNTT六支店に開設される近未来通信の体験できるコーナー「マルチメディアワールド」の開設記念式典が、当社をメイン会場に、各会場とテレビ会議システムで結んで行われました。

●NTT日本電信電話
浅田　和男　関西支社長
「芸能を通じて全国に情報を発信していた西宮神社の神前から、未来通信の新しい一歩を踏み出せたことに深い意義を感じました。」

◎阪神タイガース必勝祈願 4月2日

プロ野球セ・リーグ公式戦の開幕を直前に控えた恒例の必勝祈願祭が行なわれ、球団に必勝祈願札と選手全員に福守りが授けられました。

●阪神タイガース
吉田　義男　監督
「打てないといわれていても打てるかもしれない。あらゆる可能性を引き出すことを神前に誓いました。」

●阪神タイガース
新庄　剛志　外野手
「生まれて初めて手にしたおみくじが大吉、この幸運を大切に試合中はポケットに入れておきます。」

◎十日えびす開門神事実況生中継 1月10日

毎日放送・TBS系列の朝の情報番組「おはようクジラ」で本えびす午前六時から行われる「開門神事福男選び」が全国へ史上初めて実況生放送されました。

●毎日放送報道局
田原　達雄　専任部長
「全長約二百メートルの参道を二十秒余りで駆け抜ける神事の臨場感をだすために、四台のカメラに絞り一瞬のスイッチングに賭けました。千名近い参加者の気迫には、圧倒されました。」

◎大鳥居竣工通り初め式 4月3日

阪神大震災で倒壊した参道の注連柱の跡地に西宮で代々酒造関係の会社を営んでおられた半田利晴氏、晴久氏（深見東州）父子によって鋼鉄製の大鳥居が奉納されました。

●ワールドメイト
深見　東州　リーダー
「出身地西宮の一日も早い震災復興を願い、そのシンボルとして、縁深い境内に大鳥居を奉納させていただきました。」